新 年 の ご 挨 拶

武 田 喜 三*

会員の皆様，新年あけましておめでとうございます．日本鉄鋼協会は，ここに創立 68 周年の新年を迎えました．わが鉄鋼業界は，今年もまた激動する世界の政治，経済情勢の中で厳しい企業環境にさらされるものと考えられます．当協会と致しましては，この常に変動する新たな時代に対応するため，学術，技術の分野で一層の研鑽に努め実力を涵養する必要性に鑑み，当協会の諸活動をさらに活発化，充実させて参りたいと思いますので，会員の皆様の絶大なるご協力を，お願い申し上げる次第であります．

さて，近年日本の鉄鋼製造技術の発展は著しく，今や世界における指導的立場を堅持しておりますことは，皆様ご承知のとおりでございます．

その最新鉄鋼技術を集大成した「鉄鋼便覧」の改訂版が，本年をもつて全巻刊行の運びとなりました．本協会の編集になる「鉄鋼便覧」の第3版は，54 年刊行の製銑・製鋼編を始めとし，一昨年は圧延編，昨年は基礎編，鉄鋼材料，試験，分析編を刊行し，本年中には，8年に亘る長い作業を完了し，鋳造や二次加工などの残り2編も刊行されることになつております．「鉄鋼便覧」は，鉄鋼に関する技術ならびに学術の実際面に役立つ資料として集大成されたもので，昭和 29 年に第1版が刊行され，昭和 37 年には技術の進歩に対応して大幅な増補改訂が加えられました．さらにその後の飛躍的な鉄鋼技術の進歩発展に応えるべく昭和 49 年より，本協会共同研究会を中心に，産業界，学界に協力を仰ぎ，わが国における最高の陣容によつて編集され，その内容は，世界の最高水準にあるわが国の鉄鋼技術全般を体系化したものであります．のべ 1 000 名を超える関係者により，全6巻7分冊にまとめられた本便覧は鉄鋼に関係する技術者，研究者はもちろんのこと，鉄鋼に関する情報を必要とする他の業界の皆様にも広く重用されるものと確信しております．

本協会の主要行事である講演大会での発表講演数は，昨年春秋合わせて，1 350 件を超え，ますます盛大なものになつております．その内容も，理論的，研究的な基礎に関するものから，現場のプロセスや技術開発に関する実践的なものまで，非常に広範囲に亘り，かつ高度なものであります．

また，並行して開催されている特定テーマについての討論会も時宜を得たテーマを採りあげて活発な討論が行われ，参加する研究者，技術者の相互啓発に大きく寄与しております．

一方，共同研究会はそれぞれ専門分野での新技術，新設備の紹介，討論，見学等の技術交流，情報交換活動の場として活用され，日本鉄鋼業のレベルアップと国際競争力を高める一助となつていると存じます．

機関誌「鉄と鋼」ならびに「Trans. ISIJ」に投稿される論文もますます充実し，国際的にも高い評価を得ています．限られた紙面ではありますが，今後ともより多くの知見技術の発表の場としての会員の皆様の絶えざる努力をお願いします．

また，標準化委員会は，鉄鋼関連規格をより使いやすくするためのたゆまぬ活動を続けています．国際規格 ISO の TC17（鉄鋼関連）事務局としての活動も3年目を迎え国際標準化の推進に大きな役割を果たしつつあります．本年 10 月には TC17 幹事国として，初めての総会を東京で開催する予定に

* 本会会長　大同特殊鋼(株)取締役社長　工博

なつています.

昨年，当協会が主催した国際会議は，スクラップリサイクルに関する国際シンポジウム（4月），薄鋼板成形に関する国際シンポジウム（5月），第3回日本-スウェーデンシンポジウム（5月），第8回日本-ソ連シンポジウム（6月），第6回材料集合組織会議（9月），第1回日本-中国シンポジウム（9月），第3回日本-チェコシンポジウム（11月）と，多くを数えましたが，それぞれ好評裏に開催することができました．特に隣国である中国との鉄鋼技術交流を推進するため，第1回の日本-中国シンポジウムが開催されました．

今後も日本の鉄鋼製造技術，設備の優位さを背景に，諸外国との交流が要望され，かつ指導性が期待されてますます国際交流活動は，拡大されていくものと思います.

以上，日本鉄鋼協会の多角的な業務活動の一端をご紹介しましたが，今年もこれらの活動をさらに活発なものにして参ることと存じます.

激動の80年代は日本鉄鋼業界に対し，数々の試練を与えずにはおかないものと思われます．鉄鋼業に携わる我々は，諸先輩の築きあげられた叡知と努力を糧に，困難な諸問題を克服していかねばなりません.

日本鉄鋼界のますますの発展のため，会員の皆様のご活躍と当協会の一層の活動を祈念いたしまして新年のご挨拶といたします.